

キャンパス通信 ippeki



- 01 学長挨拶／
危機の時代に備える大学
- 02 特集1／
インドネシア国立アイルランガ大学から
留学生3名が来学
- 03 学部 入学してから半年 1年生に、この半年の思いを
聞きました
国際保健・看護Ⅱ ベトナム海外研修報告
- 04 国際看護実践研究センター
地域連携・教育センター
- 05 特集2／
第3回学長杯を開催しました！
- 07 大学院
- 08 教員紹介
- 09 図書館
- 10 情報公開

第25号
2023.4 ▶ 2023.9

インドネシア国立アイルランガ大学からの留学生



ひとりを看る目、その目を世界へ



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

学長挨拶

危機の時代に備える大学

今年は、関東大震災後100年を迎えています。100年が経過する中で、地球温暖化や大規模感染症など、環境そして世界情勢は大きく様変わりしました。ここ最近では、大雨による被害が全国規模で生じており、誰しもが危機を身近に感じています。

危機の時代に、持続可能な社会を発展させるためには、危機へ備えるためのリスク教育やケアの開発が必須となっています。大学では、正課内外において、自校教育の推進をしており、赤十字の人道理念に基づき、主体的に防災・減災をめざした数多くのボランティア活動が行われており、その使命を後輩へとつなげています。例えば、地域の高齢者とともに災害リスクマップを作成し、「互近助の力(ご近所同士で、情報共有し、互いに気遣い、配慮することを通してコミュニティにおけるつながりや安全を確保すること)」を駆使して、認知症高齢者の方々の避難訓練を実施することなど、知恵とつながりを創っています。このように、人々の命と尊厳を守る活動は、身近な人々に目を配り、対話するという経験の積み重ねにより培われるものです。

自然災害であれ、大規模感染症であれ、危機は国を超えて、多発的に起こっています。したがって、リスクや災害への備えについては、グローバルな視点から学ぶ機会が必要です。本学では、海外協定校との間で、災害看護について学びあうプログラムを展開しています。今夏は、インドネシアの学生が本学の学生とともに災害看護の実践を行いました。両国の災害対策の特徴について福岡の離島に赴いて、地区探索を行い、そのうえでその地区の防災・減災を検討する研修を行いました。両国の学生は、異なる視点から、互いの意見を交わすことで、自分たちだけでは見えなかった課題や解決の糸口を見出す体験をしました。つまり、リフレクティブに自国の防災・減災の対策を検討する機会を持つことができるわけです。多様性の中でリフレクティブに学ぶことが今後のリスク教育には必須となっています。

本学では、赤十字の理念、ネットワークのもと、レジリエントで持続可能な社会への変革にむけて、主体的に危機に備えることのできる人材の育成を今後も進めてまいります。どうぞご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

学長 小松 浩子



特集1

インドネシア国立アイルランガ大学から 留学生3名が来学

国際看護コース4年生4名は、赤十字活動Ⅱの科目において、「災害」をテーマに国際交流協定校であるインドネシア国立アイルランガ大学から来学した学生3名と教員1名とともに学修しました。

講義や病院での見学実習、福岡市民防災センターの訪問、ディスカッション等を通して、多くの学びを得ました。

アイルランガ大学Nuzul先生の「HIV」の講義では、インドネシアにおけるHIV感染者数の増加に驚くとともに、その背景には性に関する教育不足が関与していることを知り、日本にも共通する要因であること、すべての人が性やHIVについて正しい知識を身につけることが大切であることを学びました。

病院の見学実習では福岡赤十字病院を訪問しました。病院や看護部の概要、赤十字の国際救援活動について講義をしていただいた後、病棟を訪問し、今回の学習テーマである「災害時の対応」について説明していただきました。非常事態の対応や備えについて、実習とは異なる視点で学ぶことができました。

防災センターの訪問では、火災現場からの避難や消火活動、震度7の地震を体験することで、災害は予測することが難しいこと、だからこそ日々の訓練の重要性を痛感しました。

週末は神社の参拝や茶会体験、博物館などを訪れ、日本の文化に触れてもらいました。国際交流においては語学だけでなく、日本の文化や歴史を学ぶことの大切さを学びました。最終日には、今回の研修プログラムの学習成果を発表しました。共同で発表資料を作成する中で、日本とインドネシアの災害対策の違いや災害対策では地域が自立して災害に対応できるようになることの重要性を改めて認識しました。

今回の研修を通して、災害現場で専門職として自らの役割を全うするためには、新しい知識を修得できるよう学び続けることが大切であり、そのような看護師になれるよう努力したいと思いました。

国際看護コース 4年 一川いぶき、小野田りお、空和花、帆足香凜



福岡赤十字病院での講義風景



学内演習の様子



入学してから半年 1年生に、この半年の思いを聞きました

大学生になってから変わったこと、楽しいこと

私は大学生になってから環境ががらりと変わり、毎日驚きながら楽しく過ごしています。中でも1番の変化は一人暮らしを始めたことです。大学では同じように一人暮らしをしている友人もでき、家事のことや休日の過ごし方などを話しながら日々過ごしています。もちろん出身が地元の友人もいるのですが、自分が想像していたよりも多くの人が県外から来ており驚きました。

友人たちとこの大学に来た理由を話す機会があり、皆、赤十字の看護大学だからということで選んでいました。また、看護師や保健師、助産師を目指すきっかけを聞いていると自分もがんばろうと、やる気が出ます。

大学の講義はこれまで学んだことがないことばかりで、毎日友人たちと相談しながら勉強しています。赤十字の看護師として海外で活動経験のある先生方の講義では、その時の活動内容を聞けることもあり、自分の将来について考えるきっかけになっています。私はまだ具体的な将来像が定まっていますが、いろいろな先生方の話を聞いてしっかり考えていこうと思います。

学部1年 前田 理咲子

国際保健・看護Ⅱ ベトナム海外研修報告

国際看護コース3年生5名は、国際保健・看護Ⅱの科目において、8月8日～8月15日の8日間国際交流協定校であるベトナム社会主義共和国ナムディン看護大学で、研修を行いました。今年は「交通事故から命を守ろう」をテーマに、ベトナムの中学生に対して「バイク事故から頭を守る、ヘルメットの重要性」を伝えるためにナムディン看護大学の学生とディスカッションし、授業を考え、実施しました。その他にも、ナンヴァンヘルスセンター、高齢者宅、ベトナム赤十字社の訪問を通して、多くの学びを得ました。

DAY1:研修初日

頭部外傷やヘルメットの重要性についてディスカッションを行いました。

両国とも英語が母国語ではないため、意見がまとまらない場面もありましたが、最終的にはひとつのプレゼンテーションを一緒に作りあげることができました。

DAY2:中学校の訪問

バイク事故による頭部外傷とヘルメットの正しい着用方法について実践を交えた授業を実施しました。

中学生からは、自分たちのために準備をしてくれてありがたい、命を守るための授業であった、という言葉聞くことができました。

DAY3:ナンヴァンヘルスセンター訪問

東洋医学も取り入れた住民の健康管理の話も聞き、ベトナムの地域医療について知ることができました。

高齢者宅を訪問させてもらい、地域住民の生活の状況を知ることができました。

DAY4:ナンヴァン地区の高齢者を対象に健康体操を実践

最終日:ベトナム赤十字社を訪問

台風や洪水氾濫などの自然災害が頻発するベトナムにおけるDRR (Disaster Risk Reduction : 減災) の重要性やヘルス活動の実践についての講義を受講しました。ベトナムにおいても赤十字が地域社会において重要な役割を果たしていることを再認識することができました。

今回の研修を通して、その国の特徴や文化を十分に理解し、共に学ぶ姿勢を持ちながら一つのことを成し遂げることの重要性について学びました。



国際看護実践研究センター

令和5年度国際フォーラムを開催

熊本赤十字病院 前副院長兼看護部長の東 智子氏、福岡赤十字病院 看護師長の中島 法美氏を講師にお招きして、赤十字運動月間である5月25日にオーヴァルホールで令和5年度国際フォーラムを開催しました。お二人の講師からは、熊本地震災害や令和2年豪雨災害での被災地の病院での対応と被災者への災害救護の経験をご講演いただきました。

東氏は、震源地に最も近い災害拠点病院で急性期の災害対応のご経験から、災害に対する職員の意識づけ、様々な災害対応研修・訓練の参加の機会、過去の災害活動から得た知見が熊本地震を乗り越えることができ、看護職にはニーズを掘り起こす力（観察・分析力）が必要であるとお話いただきました。

中島氏は、被災から3カ月が経過した熊本地震災害でこころのケアを行った体験から、病棟異動で様々な診療科（高齢者看護、認知症ケア・小児看護）を経験したことが災害救護において役立ったこと、こころのケアの対象者との関係づくり（寄り添う、傾聴）、赤十字のマークによる効用、そして状況のアセスメント能力が重要であり、日々の看護実践で培われたニーズを掘り起こす力の大切さをお話いただきました。

また、本学の小川学部長より、本学における「災害看護」の取り組みについて説明し、離島（宗像市地島）での防災・減災活動に取り組んでいる学生が、活動報告をしました。



病院での災害対応のご経験を語られる東智子氏



こころのケアを行ったご経験を語られる中島法美氏



学生による活動報告

地域連携・教育センター

クロスカレッジ2023を開催

今年度は、「防災・減災」「かがやけシニア!」「こころの健康」の3つをテーマに、市民の方を対象に7つの講座を開設しています。

「防災・減災」講座では、参加者が居住する地域の防災マップ作製を通じて、地域の避難経路・避難所を把握してもらいました。互近助での助け合いをテーマにした講座では、災害時の避難行動支援者について考え、誰一人取り残さないために日ごろから交流を深め、どのような助け合いができるのか地域で話し合うことが大切だと学びました。また、学生ボランティアが参加者の方々とともに「防災カルタ取り」を行いました。地域の方々からは、日頃の備えや被災体験の話を聴かせていただきました。学生ボランティアからは、災害に対する知識や意識、取り組みを看護学生の視点でお話をさせていただき、「防災かるた取り」を通して、地域の方々と学生との交流の場となりました。

「かがやけシニア!」講座では、笑いと呼吸法を学ぶ「笑いヨガ」、健康な足づくりのための「フットケア」を行いました。「笑いヨガ」の講座では、実際に声を出し、体を動かす実践が行われ、終始笑いが絶えない楽しい講座となりました。

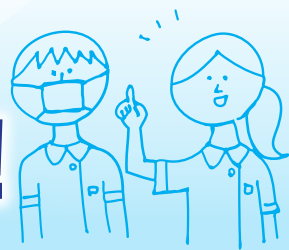


「防災かるた」を行う参加者と学生



大きく体を動かして「笑いヨガ」を実践中

学長杯を開催しました!



今年で3回目の開催となる学長杯を9月20日に開催しました。

今回は過去最多となる10チーム49名の学生たちが参加し、それぞれのステーションで看護技術や看護知識、ジェネリックスキルなどを活用しながらお題に挑戦していました。

また今年は、昨年にご協力いただいた福岡県支部、福岡赤十字病院に加え、嘉麻赤十字病院、今津赤十字病院から運営協力いただく日赤福岡県支部職員や看護師の方々を派遣いただき、よりリアリティのある状況設定を作り出すことができました。

さらに日本赤十字学園からは富田博樹理事長にもご参加いただき、さまざまなステーションを見学・体験いただきました。

参加した学生たちの声

学長杯では各ブースで問題が提示されます。仲間で協力してアドバイスを交わすことで問題を解決できた際の達成感は大きかったです。一方で、各ブースでの問題は多様であり、知識を備えていても解決するための行動をどうしたら良いのかわからないという場面も多くありました。知識をただ覚えるだけでなく、知識を活かして状況を判断し、行動する、看護を実践する力が必要であると学びました。仲間と楽しむと同時に自分の今足りていないところを見つめ直すことができた思い出に残る学長杯になりました!



2年 安田 千鶴

今回の学長杯では、わからないことが多くあり先輩方に助けをもらえばかりでしたが、すごく勉強になったしもっとこれから頑張ろうという気持ちも大きくなりました。ステージの中には一年生の中で習っていた内容もあり、ベッドメイキングでは、普段はできていたはずなのに緊張してペアの子とコミュニケーション取ることができず何度か失敗をしてしまったけど、先輩方が隣からアドバイスをくれて少しは点数を稼ぐことができました。今回の経験を活かして今後の演習や実習に取り組んでいこうと思います。



1年 河原 未玖

今回、初めて学長杯に参加させていただきました。初めての経験で分からないところだらけで大変な面もありましたが、先輩方に何度も助けていただき楽しみながら無事終わることができました。特に印象に残ったのは多重課題のブースです。優先順位をつけ解決していくと分かっているけど、次から次に起こる課題に思考が停止するほど慌てました。多重課題が起こった際には、落ち着いて優先順位をつけ他の看護師などに協力を求めることが大切だと学びました。学長杯で多くのことを学ぶことができました。企画・運営してくださった方々ありがとうございました。



1年 高尾 直歩

今回の学長杯で私は、大学生活を送る上での目標を明確に立て直すことが出来ました。これまでは、卒業後のような看護師になりたいのかなど、具体性のない目標ばかりでしたが、先輩方の患者との関わり方や接し方を見て、2年後私も同じような動きが出来たらいいなと思い、まずは2年後までの目標や目指す人が出来ました。学長杯の中でできることは限られていましたが、普段の講義では学べないことを先輩方から学ばせていただき、とてもいい機会になりました。



1年 山口 美咲

8つのブースを行って、上手くできたなと達成感があつたブースとモヤモヤした感じが残って後悔が残ったブースもあり、今まで学んだことを振り返り、考えを深めることが出来たと思います。技術や知識不足も痛感しましたが、特に患者さんとの会話や指導者さんに報告する際に自分の気持ちや考えを言葉にする力不足を感じました。9月からの実習では今回の学長杯での学びや気づきを活かして臨みたいと思います。



3年 秋吉 明莉

今回、学長杯に初めて参加し、学んだことを実際に行うことの難しさを感じました。どのブースでも環境や患者役が忠実に再現しており、臨場感や緊迫感に満ちていました。チームで課題に取り組み、臨機応変に対応したり、学んだ知識を活用して案を出している先輩方の姿にとっても感動するとともに、大いに刺激を受け、楽しみながら学ぶことができました。この学びを今後の実習に役立てていきたいです。



1年 濱田 玲華

今回初めて学長杯に参加させていただきました。今まで関わってきた友達や初めて関わる後輩と一緒に協力しながら、各ステーションに取り組んでみて、それぞれのいいところや私がこれから頑張りたいなと思うところを見つけることができました。また、仲間と一緒にステーションをクリアしていった達成感があり、とても楽しかったです。今夏のいい思い出になりました。このような機会を作ってくださった方や協力してくださった各施設の方々、本当にありがとうございました。



3年 高田 結



大規模災害ブース
災害対策本部に救護活動を報告

運営に携わった学生・教職員の声

運営側も
楽しんでいます!!



3年 宮田 愛子

今回、ブースを企画するにあたって、概要から詳細まで考えなければならないことが沢山あり不安に思うこともありましたが、メンバーや先生方、宗像市社会福祉協議会の方と何度も話し合いを重ね、徐々に企画が形作られていく過程で、たくさんの学びや気づきを得ることができました。

メンバーの遊び心が詰まった素敵なブースを完成させることができ、また、参加者の皆さんがチームで協力しながら一生懸命取り組んでくださり嬉しかったです。これを機に認知症の方への理解が深まり、「認知症高齢者捜してメール」について少しでも興味を持ってくれる人が増えたら嬉しいです。



1年 鶴 琴柊

学長杯の運営ボランティアを通して、先輩方や先生方との交流を深めることができました。また、様々なブースを見学することで、これまでの講義の復習となり、新たな知識や技術を身につけることができました。初めての行事の参加に加えて、同学年がいらない状況に不安がありましたが、先輩方や先生方の優しく丁寧な対応のおかげで、楽しく学長杯に参加することができました。



3年 駒村 玖典

運営スタッフは思った以上に忙しく、臨機応変さが求められる役割でした。しかし、他の運営スタッフの先生や学生と協力して最後までやり遂げることができました。大変なことも多かったですが、参加している学生が笑顔で楽しんでいる姿を見て、準備や運営を頑張ってきたのだと感じました。また、学長杯がたくさんの方たちの支えで成り立っており、私もその一員として学長杯に関わることができたので良かったです。また機会があれば運営スタッフに挑戦したいです!



2年 東 美来

昨年に続き今年もブース運営として関わらせて頂きました。今年は赤十字や献血に関する問題を作成しました。私達も作る段階で学ぶことができ、挑戦してくれた人達が歴史を思い出すきっかけや、新たな学びに繋がったとゲームを通して実感することができました。当日まではトラブル無く無事に終了するかな不安でしたが、コロナ禍で楽しいイベントが少ない中での参加された皆さんの良い表情をみれて安心感と達成感で胸がいっぱいになりました。先生方の協力も心強く感謝しています。来年は参加者として学長杯を楽しみたいと思います。

今回学長杯に初めて参加させていただき、学生が災害時の対応について真剣に考える姿が非常に印象に残りました。「止血が上手くできなかった。」と課題を見つけた学生もいて、このような体験がこれからの学びに大きく影響を与えているのだと感じました。

財務課 有村 香澄

学生さんは学年が異なるグループ構成でもグループとしての協調性、信頼性、団結性を発揮しており、学長杯の楽しさや有意義さを一緒に体験してもらいました。なにより学生さんも教職員も楽しんで、笑顔で参加していたことが印象深いです。大学一丸となって一つのイベントを作り上げる楽しさをありがとうございました。

助教 高比来 ひとみ



災害発生ブースで左足を負傷! 学生が応急処置を行います

認知症高齢者ブースでは 駅で娘と待ち合わせ

日本赤十字学園 富田理事長にも、患者役などを担っていただきました。理事長曰く、「とても楽しかった。有意義な時間でした」そうです!



学生奉仕団によるブース 赤十字の知識が試されます



学生企画のブース 「認知症高齢者捜してメール」を広めます



大規模災害ブース 大災害で負傷した人をトリアージし応急処置



多重課題ブース 次々と起こる課題を先輩看護師に報告中



メンタルヘルスケアブース 実習終了目前。洗髪を嫌がる患者さんに アサーティブな声掛けを実践!



最後に皆さんで集合写真

このイベントは、赤十字6大学の中でも本学が独自に開催しているイベントです。今後も学生が楽しみながら学ぶ機会を創出できるイベントとして継続していきたいです。

CNSコースでの学び

小学生の頃から毎年通知表には“マイペース”と書かれていた私は、身内からはクリティカルケア領域で働いていることを、いまだに信じてもらえていません。そんな私ですが、気づけば15年以上同じ分野で働いてきました。深くは考えずに、ただがむしゃらに。

そんな中、経験だけでは補えない知識を得たいと思い大学院を受験致しました。しかし、理想とは裏腹にICU勤務と大学院の両立はなかなか厳しく、目的をしばしば見失っている日々です。それでも何とか半年を過ごせたのは、先生方や同期、そして職場の同僚たちのおかげでした。

高度化・複雑化するICU領域での視野を広げ、看護現場の質や看護師の専門性を高めていくことに貢献できるよう、(今の私には奇跡的な能力ですが)能力を授かりたいと願って通学しています。足元がおぼつかない私なので、とりあえずマイペースに、でも確実な一歩を踏んでいけるようにCNSコースで学んでいければと考えています。

大学院修士課程 CNS コースクリティカルケア看護学 1年 向山 恵



上田奨学生(研究者としての第一歩に向けて)

私は、今年の春から共同看護学専攻の博士課程に進学し、新たな生活を始めました。進学にあたり、仕事との両立の時間的な課題や家族に対する経済的な負担、また私が住んでいる和歌山県からキャンパスまでの距離といった様々な障壁がありました。しかし、私は「自分の研究テーマに取り組みたい」という考えを強く持ち、その思いから日本赤十字九州国際看護大学への進学を決意しました。

入学後、家族への金銭的な負担を軽減できるように奨学金を受給することを決め、現在は上田奨学金を貸与していただきながら勉学に専念しています。大学院で私は、研究に取り組むための研究力を身に着けると同時に、それを実現するため人間的な成長も大切にしています。将来的には、臨床看護に貢献できるような研究者を目指し、学んでいきたいと思っています。

この度は、奨学金を貸与していただきありがとうございました。



共同看護学専攻博士課程 1年 納谷 和誠

大学院生交流会に参加しました

8月4日(金)に大学院生交流会が開催されました。今年は対面での実施が叶い、先生方、先輩方と実際に会ってお話することができました。

交流会では、修士課程1年生が自己紹介、研究テーマ、大学院生活で悩んでいることや先輩方にお尋ねしたいことなどを発表し、それに応える形で修士課程2年生が発表、先生方の自己紹介と続きました。自己紹介では専攻しているコースとマイブームを紹介しました。園芸や音楽、釣りといった様々な趣味を知り、同期生、先輩方、先生方の新たな一面を見つけることができました。また、親近感が湧くと同時に緊張がほぐれ、楽しく過ごすことができました。先輩方から頂いたアドバイスの中でも、「大学院はチームプレイ」という言葉が印象に残っています。研究や日々の大学院生活は孤独ではなく、お互い支え合い、ときに切磋琢磨しながら学びを深めていく場所であることを感じられました。先生方や先輩方から頂いたアドバイスを活かし、有意義な大学院生生活を送りたいと考えています。貴重なお時間を頂き、ありがとうございました。

大学院修士課程助産コース 1年 奥村 英恵



教員紹介

令和5年(2023.1~2023.4)に着任した4名の教員のうち、 今回は2名の教員をご紹介します！

うちだふづき
成育看護 助教 **内田 文月** 先生
インタビュー

Q 先生のご専門分野について教えてください

A 母性看護学、助産学を専門としています。すべての女性とその家族が生涯にわたって健康な生活が送れるよう、専門的な知識と技術で支援していくことを専門としています。臨地実習では、女性の一生の中でも、最も大きな変化である妊娠期から産褥期の女性および新生児に対して様々な看護を実践します。現在私も2児の母親として子育てに奮闘しており、学生さんへは、自身の経験も含めたリアリティのある指導を心掛けています。

Q 本学へ来られて、大学・学生の印象はどのようなものですか

A 自然を求めて移住をしてきたので、私にとって大学の環境は理想的でした。周囲の多くは緑に囲まれ、四季折々の風景に癒されながら仕事に取り組めます。一方で実習室は、とても充実しています。妊婦腹部触診モデル、産褥子宮底モデル、聴診器で心拍が聴取できる新生児モデル、乳房マッサージモデル等、母性看護学・助産学に必要な技術を学修できる環境が整っています。



Q 勉強や研究に行き詰った時のリフレッシュ方法はありますか

A リフレッシュ方法は2つあります。1つ目は、海や山、自然公園に行きます。自然の中で子どもと遊んでいると頭の中がクリアになります。また、自然の中でボーっとしていると、急に問題を解決する良い案が閃くこともあります。

2つ目は、料理です。作ることも食べることも大好きなので、音楽を聴きながら楽しく作っています。自宅付近に産直市場があるので、新鮮な食材を手に入れることができます。東京では見たこともない野菜や魚もあり、どのように調理しようか色々調べて作るのも楽しいです。最近は、ストウヴ鍋（無水調理）や発酵食品を使った料理をよく作ります。

内田先生の略歴

熊本県生まれ。助産師として総合病院や診療所に勤務した後、大阪市立大学大学院で看護学修士号取得。大学院在学中に国立国際医療研究センターの研究班に所属し、2度カンボジアへ渡航。

厚生労働省の外郭団体（公財）産科医療補償制度運営部で7年間勤務、その間2児を出産。

2022年 東京都から福岡県に移住。2023年 本学へ入職。

おがわ ゆ き こ
ヘルスプロモーション・在宅看護 助教 **小川 有希子** 先生
インタビュー

Q 先生のご専門分野について教えてください

A ヘルスプロモーション・産業保健が専門です。ヘルスプロモーションは、全ての人の健康・環境を守る役割があります。公害指定区域に生まれ育ち幼少期は喘息に悩まされた経験から、自然科学や有害物質など健康障害を引き起こす暴露要因に関心があります。公害克服に向けた住民主体活動『青空がほしい』の恩恵で、今の健康・環境が保たれていること、過去からのプレゼントであるという認識が専門を選んだきっかけです。産業保健は、働く人々の健康・環境を守ることが専門です。全ての労働者の『健康』と『安全』について産業保健スタッフ（産業医・産業保健師・衛生管理者など）と人事労務担当者が事業場の産業保健活動に取り組んでいます。



ことに思え解決策が導き出されます。私の場合、研究のアイデアが生まれる時や方向性が導き出される時はランニング中に映像でヒントが現れます。この瞬間が大好きです。私にとってのランニングは、アイデア創出の場でもあり、頭や身体や心のリフレッシュにつながっています。

Q これからトライしてみたいことはありますか

A 物理学の学び直しをしたいと思っています。産業保健は、健康に関係する医学的な知識だけでなく、環境に関係する化学や物理の知識が必要です。特に私が研究している『安全』や『作業管理』の部分は、物理学の音・光・熱・時間・宇宙など多くの知識が必要です。といっても物理学は難しい学問です。まずは、物理学者A.アインシュタインの人物像や相対性理論が生まれた背景、世界観を深堀することにトライしたいです。

Q 勉強や研究に行き詰った時のリフレッシュ方法はありますか

A ランニングをすることです。ランニング中は、自分の身体を動かすことに集中しますので『無』になります。自分の身体や心に向き合うことのできる貴重な時間です。過去の自分と今日の自分との微妙な変化を感じます。5~10kmほどのランニングをすると、頭の中の思考が整理されます。そして爽快感を感じることができます。この爽快感が優位になることで行き詰った事象が小さな

小川先生の略歴

北九州市若松区生まれ。看護師・保健師・第1種衛生管理者・養護教諭Ⅱ種免許を取得。看護師・保健師（産業・行政）を経験したのち、修士号（看護学）を取得。福岡県立大学助手、聖マリア学院大学助手、第一薬科大学助教を経て本学へ入職。産業医科大学大学院医学研究科 産業衛生学専攻博士後期課程 産業疫学・医学概論領域在学中。

本学初の学生選書ツアーを実施しました

2023年5月2日(火)JR博多シティ8階のMARUZENにて、本学学生選書ツアーを実施しました。3年生の4名が、約1時間、広い店内を回り、楽しそうに図書を選んでくれました。

参加学生の感想

学生自身で本を選ぶという経験がなかったので
おもしろかったです。
図書館の在庫状況も確認することができましたし、
素晴らしい企画だと思いました。

少し時間が短いように感じました…。
もう少しゆっくり選びたいです！
ぜひまた参加したいです！

自分が今まで読んでこなかったジャンルの本に
出会うことができて楽しかったです。
実際に本を手にとって選べるのが選書ツアーの
醍醐味なので次回も店頭で実施して欲しいです。

少しでも気になった本を次々にカゴに
入れていくのが楽しかったです！
次はもっとたくさんの人と参加したいです



図書館へ受入後は、参加学生の手作りのポップとともに館内で紹介し、多くの利用者が手に取っていました。

このツアーで選ばれた図書は、本学古本募金*で得られた寄付金により購入しています。本学古本募金にご協力くださったみなさまへこの場をお借りしてお礼を申し上げますとともに、引き続きご支援賜りたくお願い申し上げます。

*古本募金とは

古本を査定会社に送ると査定会社が換金し、その金額が大学に寄付されるものです。
得られた寄付金は、学生の学修に必要な図書の購入に充てることとしています。



古本募金へのご協力を
ありがとうございます。



<購入図書リスト>

書名	出版社名
おうち性教育ははじめます〜一番やさしい!防犯・SEX・命の伝え方〜(MF comic essay)	KADOKAWA
20代で得た知見	KADOKAWA
花を見るように君を見る	かんき出版
小さな星だけ輝いている	かんき出版
頭のいい人の対人関係〜誰とでも対等な関係を築く交渉術〜	サンクチュアリ・パブリッシング(サンクチュアリ出版)
人は話し方が9割〜1分で人を動かし、100%好かれる話し方のコツ〜	すばる舎
人は聞き方が9割〜1分で心をひらき、100%好かれる聞き方のコツ〜	すばる舎
賢者の書	ディスカヴァー・トゥエンティワン
これならわかる!心電図の読み方〜モニターから12誘導まで〜	ナツメ社
その本は	ポプラ社
すべての瞬間が君だった〜きらきら輝いていた僕たちの時間〜	マガジンハウス
くもをさがす	河出書房新社
地震・台風時に動けるガイド〜大事な人を護る災害対策〜	学研
救急を救う男〜医師・松岡良典が実現させた24時間365日絶対に断らないクリニック〜	現代書林
日々臆測(飛ぶ教室の本)	光村図書出版
本を読む本(講談社学術文庫)	講談社
はたらく細胞BABY<1>(モーニングKC)	講談社
はたらく細胞Lady<1>(モーニングKC)	講談社
はたらく細胞Lady<2>(モーニングKC)	講談社

書名	出版社名
はたらく細胞LADY(3)(モーニングKC)	講談社
はたらく細胞LADY(4)(モーニングKC)	講談社
はたらく細胞LADY(5)(モーニングKC)	講談社
ナイン・ストーリーズ〜Nine stories〜(Kodansha English library)	講談社インターナショナル
老人と海〜The old man and the sea〜(Kodansha English library)	講談社インターナショナル
さいごはおうちで〜在宅医たんぼ先生物語〜	主婦の友社
おうちに帰ろう〜ねこマンガ〜(在宅医たんぼ先生物語 2)	主婦の友社
ゴールデンランバー〜A MEMORY〜(新潮文庫)	新潮社
われら闇より天を見る	早川書房
チーム・ブルーの挑戦〜命と向き合う「やまと診療所」の物語〜	大月書店
臨終の謎〜医師が体験した不思議な話〜	中央公論新社
なぜ、認知症の人は家に帰りがたがるのか〜脳科学でわかる、ご本人の思いと接し方〜	中央法規出版
本当の自由を手に入れるお金の大学	朝日新聞出版
キャッチャー・イン・ザ・ライ	白水社
夢をかなえるゾウ<1> 文庫版	文響社
夢をかなえるゾウ<2> ガネーシャと貧乏神	文響社
夢をかなえるゾウ<3> ブラックガネーシャの教え	文響社
夢をかなえるゾウ<4> ガネーシャと死神	文響社
イニシエーション・ラブ(文春文庫)	文芸春秋
神域(文春文庫 33-4)	文芸春秋

本学の目的と、卒業（修了）時に身につけるべき知識能力について

看護学部看護学科

Department of Nursing, Faculty of Nursing

看護学専攻 修士課程

Master's Program in Nursing

共同看護学専攻 博士課程

Cooperative Doctoral Program in Nursing

目 的

本学は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術を中心として、広く知識を授け、深く専門の学術を教授、研究するとともに、知性、道徳及び応用的能力を養い、もって国内外で活躍できる実践力をもった看護専門職の育成及び看護学の発展に寄与することを目的とする。

本大学院は、建学の精神である赤十字の理想とする人道的任務の達成を図るため、看護に関する学術の中心として、広く看護の実践と教育・研究に関する理論と専門技術を教授研究し、深い学識及び卓越した感性と人間性を備えた高度な看護専門職の育成を図り、看護学の発展とともに世界の人々の健康と福祉の向上と豊かな生活の創造に寄与することを目的とする。

赤十字の理念である「人道 (humanity)」の実現を目指し、いかなる場合でも一人ひとりの尊厳を守り、人々が有する平和と健康に生きる権利について看護を通して実現することを共通の理念としています。また、高度な実践知を基盤として、自立した研究活動と研究指導ができる研究者、質の高い看護学の教育ができる教育者、知的複眼思考・論理的思考に基づき発展的に看護を実践できる人材の育成を目指す。

卒業（修了）認定・学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

本学ではディプロマ・ポリシーとして、卒業認定・学位授与に関する以下の方針を定めている。所定の単位を収め、次の能力を身につけた者に学士（看護学）の学位を授与する。

1. 人間の尊厳と権利を擁護する力
幅広い教養を培うことによって豊かな人間性を育むことができる。
赤十字の理念である人道に基づき、人間としての尊厳と権利を尊重・擁護することができる。
2. 自己教育力
自らの思考や行動を内省することにより、自己の成長を促進することができる。
自ら目標を設定し、主体的かつ自律的に継続して学習することができる。
3. チームで働く力
集団の中で自己の果たしうる役割を理解し、他者と協働することができる。
グローバル社会における看護の役割と機能を多面的にとらえ、チームの一員として集団の力の最大化に努めることができる。
4. 問題解決力
人間・環境・健康・看護・国際に関する知識を体系的に修得することにより、看護を必要とする個人・家族・集団・コミュニティを適切にとらえることができる。
グローバル社会における健康ニーズを把握し、科学的根拠に基づいた解決策を考え、実践・評価することができる。
5. 看護の専門性を探求する力
看護の課題を探究する総合的な視野を培うことにより、看護を発展させるための基礎的能力を身につけている。
看護職としての社会的使命を自覚し、人々の健康増進への関心と意欲をもち、研究的取り組みを通して、看護の発展に貢献することができる。

本学修士課程に所定の期間在学し、研究科の修了要件となる単位数を修得するとともに、学位論文の審査および最終試験に合格し、以下の要件を満たす者に修士の学位を授与する。

1. 人間の尊厳と権利を擁護する倫理観をそなえた看護専門職として課題を探究する能力を有している。
2. 多様でグローバルな健康課題を学際的な視点から捉える能力を有している。
3. 看護学の発展に貢献する研究に取り組む能力を有している。
4. 看護専門職として研究の成果を社会に還元する能力を有している。
5. 保健医療福祉に関連した社会的ニーズに的確に対応するために、多職種と協働し、看護専門職としての役割を發揮する能力を有している。

「CNSコース」は1～5に加え、以下の要件を求めます。

6. 専門看護分野において、卓越した看護実践能力を有している。
7. 専門看護分野において、ケアの質を評価し、ケアの質改善に向けた取り組みができる能力を有している。

「助産コース」は1～5に加え、以下の要件を求めます。

6. 人の一生における性と生殖をめぐる健康・権利を守る援助ができる能力を有している。
7. 妊娠・分娩・産褥・新生児期が安全に経過するように、根拠に基づいて助産ケアを実践できる能力を有している。
8. 助産管理の視点を持ち、地域の社会資源の活用や多職種との連携ができる能力を有している。

修了要件となる単位を取得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格し、次の条件を満たすものに博士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護学において、高度な専門的業務に従事する上で必要な学識・技術・応用力に基づいて、自立的な研究活動を担える能力を有している。
2. 高度な専門性と倫理観を有した、実践者、指導者、管理者、教育者、研究者として、多角的なリーダーシップを發揮できる資質と力量を有している。



大学を囲む、宗像の海・山・空をイメージし、水と空が一続きになって
一様に青々としていることを表す四字熟語「水天一碧」から名付けら
れました。

「碧」は、同窓会「遥碧会」の字のひとつでもあり、本紙を通じて、学生
・保護者・OG・OBの皆様と大学とが一続きにつながって欲しいとの
願いが込められています。

題字：吉田 歩さん（2014年度 看護学部卒業生）／福岡県・柏陵高校出身

寄付のお願い

本学では、個人・法人の方からのご寄付を募集しています。寄付
金には、一定の税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは、本
学ホームページでご確認をお願いいたします。



日本赤十字九州国際看護大学

Japanese Red Cross Kyushu International College of Nursing & Graduate School

発行：日本赤十字九州国際看護大学

〒811-4157 福岡県宗像市アステイ1丁目1番地

Tel.0940-35-7001 Fax.0940-35-7021

<https://www.jrckicn.ac.jp/>



Instagram公式アカウント

本広報誌は、Web版でもご覧いただけます。

下記URLからご覧いただけますよう、よろしくお願いいたします。

